
8. 淡水産貝類

1 石川県の淡水産貝類相

淡水産貝類（汽水産の種を含む）の国内生息種数については、環境省の種の多様性調査（動物分布調査）における対象種一覧（環境省 2002）には 215 種（亜種を含む）があげられている。そのうち、2007 年に改訂された国の貝類レッドリストでは 96 種がリストアップされている。

先の「いしかわレッドデータブック〈動物編〉2000」においては、淡水産貝類は独立の項目としてとり上げられておらず、また当時の「その他の動物分野」の項（同書 146～147 ページを参照）においても選定種は皆無であった。これには、以下の理由があげられている。

- ①県内全域の状況を把握するにはまだ情報が不十分で、特に個体数の少ない種の県内分布がよくわかっていない。
- ②選定対象として検討すべきものがあるが（例えば、カラスガイ）、過去の文献に記載されている場所の位置が不明である。

今回の「いしかわレッドデータブック〈動物編〉2009」の改訂作業の中で、現地調査を進め、最近の分布情報と過去の文献情報を整理した。その中には、高橋 久氏を中心に行われた河北潟周辺の外来種を含む貝類調査（野村・高橋 2006）や筆者によるイシガイ類調査（石原 2008, 2009）の記録が含まれる。暫定的ではあるが、石川県に生息する淡水産貝類を整理したところ表 1 に示す 44 種があげられた。

ここでは、淡水産貝類には環境省（2002）の陸産及び淡水産貝類の対象種一覧に従い、汽水産貝類として扱われたものも含めている。したがって、本項でとり上げる貝類には、以下のものが含まれることになる。

- ①水路、溜池、湖沼に生息するカワニナ、タニシ類、イシガイ類
- ②河川渓流域の飛沫帯に生息するニクイロシブキツボ、ナタネミズツボ
- ③河川の河口近くの汽水域で見られるイシマキガイ、カワザンショウガイ、ウミニナ類

北陸地方では、富山県で約 30 種、福井県で 40 種の淡水産貝類が記録されているので、ようやく石川県においても同程度に淡水産貝類相が判明したと言える。まず、イシガイ類（カワシンジュガイ科とイシガイ科）の知見が飛躍的に増加した。イシガイ類は黒色の殻を持つ二枚貝であるため、一般には「カラスガイ」や「タガイ（タンガイ）」などと通称されるが、石川県には少なくとも 10 種のイシガイ類が生息することが判明した。能登地方では氷河期の遺存種であるカワシンジュガイが現存することが判明した。柴山潟や邑知潟では、特に周辺の水路にイシガイ類の多産する場所があることが判明した。特に、邑知潟ではカラスガイやカタハガイを含む 5 種ものイシガイ類が見られ、北陸有数のイシガイ類の多様性が高い場所として評価される。

地理的分布では、能登地方で見られるナタネミズツボが国内では他に、佐渡島に分布することが注目される。イシガイ類のカタハガイは主に西日本に分布することから、県内の個体群は東限（北限）のものとして貴重である。

一方で、多くの外来種が既に石川県内に侵入していることが判明した。巻貝類ではサカマキガイ以外にコモチカワツボ、ハブタエモノアラガイ、インドヒラマキガイ、二枚貝類ではタイワンシジミ、カワヒバリガイ、コウロエンカワヒバリガイが外来種である。中でも、カワヒバリガイは外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）で特定外来生物に指定されている。

表1 石川県の淡水産貝類リスト

科名	種名（和名）
アマオブネ科	イシマキガイ
タニシ科	マルタニシ、オオタニシ、ヒメタニシ
イツマデガイ科	ニクイロシブキツボ、ナタネミズツボ
ミズツボ科	ホソミジンツボ、コモチカワツボ
ミズゴマツボ科	ミズゴマツボ
カワザンショウガイ科	カワザンショウガイ
カワニナ科	カワニナ、チリメンカワニナ
ウミニナ科	ウミニナ、ホソウミニナ
サカマキガイ科	サカマキガイ
モノアラガイ科	ヒメモノアラガイ、モノアラガイ、ハブタエモノアラガイ
ヒラマキガイ科	カワネジガイ、ヒダリマキモノアラガイ、クロヒラマキガイ、ヒラマキミズマイマイの一種、ヒラマキガイモドキ、インドヒラマキガイ、ヒラマキガイ科の一種（ <i>Menetus</i> 属の一種）
カワコザラガイ科	カワコザラガイ、コビトノボウシザラガイ
イガイ科	カワヒバリガイ、コウロエンカワヒバリガイ
カワシンジュガイ科	カワシンジュガイ
イシガイ科	ドブガイ（※）、フネドブガイ、マルドブガイ、カラスガイ、マツカサガイ、ヨコハマシジラガイ、カタハガイ、イシガイ、オバエボシガイ
シジミ科	ヤマトシジミ、マシジミ、タイワンシジミ
マメシジミ科	フクイマメシジミ
ドブシジミ科	ドブシジミ

※ スマガイとタガイを含む。

2 種の選定基準

今回「いしかわレッドデータブック〈動物編〉2009」の改訂版で新たに淡水産貝類のリスト種を選定するにあたり、主として国の改訂版・貝類レッドリスト（2007）を参考としたが、選定基準は以下に拠った。

絶滅危惧Ⅰ類にランクされた種のうち、カワネジガイとヒダリマキモノアラガイの2種については、県内でも十分な調査が行われたと言い難いが、国内ではほぼ絶滅状態にある。ナタネミズツボ、カワシンジュガイ、カタハガイについては、国内分布を考慮して絶滅危惧Ⅰ類にランクした。カタハガイについては他の4種に比べると生息個体数はやや多いと考えられるが、水路という改変されやすい環境に生息するので、絶滅危惧Ⅰ類にランクした。

（選定基準）

- 改訂版・貝類レッドリスト（2007）の掲載種で、国内における地理的分布を考慮して分布の境界域にあたる種についてはランクを高めを設定した。
- 石川県では比較的普通種と考えられる種はとり上げなかった。
例、マルタニシ、オオタニシ、モノアラガイ。
- 移入種はとり上げなかった。例、マルドブガイ。
- 同定上の問題のある種は保留した。
例、ヒラマキミズマイマイ（類似の在来種がいる可能性がある：ヒメヒラマキミズマイマイ）、ホソミジンツボ。

この結果、表2に示す18種が今回の改訂版にランクされた。種数では、石川県産淡水貝類の約4割にあたる結果となった。生息情報が不足する部分が多いため、今後の調査が求められる。特に、潟湖の調査で

は周辺の水路で調査が進んだが、潟の本体では調査が困難なこともあり、十分な調査が行われていない。カワシンジュガイについては、県内における分布状況を精査し、地理的遺伝変異の情報も含めて県内における現状を早急に把握する必要がある。今後、県の希少野生動植物種としての指定も視野に入れたい。

新たな生息情報が得られた場合には、自然保護課または筆者に寄せられるように望みたい。

表2 淡水産貝類選定種一覧

区分	淡水産貝類	種類数
絶滅	—	—
絶滅危惧Ⅰ類	ナタネミズツボ、カワネジガイ、ヒダリマキモノアラガイ、カワシンジュガイ、カタハガイ	5
絶滅危惧Ⅱ類	カラスガイ、ヨコハマシジラガイ	2
準絶滅危惧	イシマキガイ、ニクイロシブキツボ、カワザンショウガイ、ウミニナ、マツカサガイ、イシガイ、マシジミ	7
情報不足	ヒラマキガイモドキ、ホソウミニナ、オバエボシガイ、ヤマトシジミ	4
地域個体群	—	—
計		18

謝辞

標本の同定と生息情報・文献の収集にあたりまして、多くの方々（機関）からご協力をいただきました。ここにご芳名を記して感謝いたします。

岐阜県博物館、近藤高貴、徳本洋、西村三郎、のと海洋ふれあいセンター、長谷川巖、湊宏、山本邦彦（敬称略、アイウエオ順）

（石原 一彦）

新旧対応表

		前回						0
		絶滅 0	絶滅危惧 I 類 0	絶滅危惧 II 類 0	準絶滅危惧 0	情報不足 0	地域個体群 0	カテゴリー外 18
今回	絶滅 0							
	絶滅危惧 I 類 5							ナタネミズツボ カワネジガイ ヒダリマキモノアラガイ カワシンジュガイ カタハガイ
	絶滅危惧 II 類 2							カラスガイ ヨコハマシジラガイ
	準絶滅危惧 7							イシマキガイ ニクイロシブキツボ カワザンショウガイ ウミニナ マツカサガイ イシガイ マシジミ
	情報不足 4							ヒラマキガイモドキ ホソウミニナ オバエボシガイ ヤマトシジミ
	地域個体群 0							
	カテゴリー外 0							
18								